

2022年度（令和4年度）

第1回 学校関係者評価委員会 議事録

日時：令和4年8月1日(月) 19:00～20:30

場所：福山医療専門学校内1階 会議室（リモート開催）

記録者：清水 麻住

出席者：12名

西川 文雄、望月 重伸、住田 祐輝、灰垣 俊志、東京太郎、仁泉 健太郎、村上 彰宏、濱藤 春暉、曾田 修治、藪田 素子、清水 麻住、竹下 順也（学園教職員）

欠席者：2名

島田 昌広、篠澤 浩二

1. 開会挨拶

仁泉（副学校長・副委員長）より挨拶

2. 学校長・委員長挨拶

東（学校長・委員長）より挨拶

2022年度において、前年度の国家試験合格率目標未達の反省を踏まえ、各学科より方針を伺いたい。また、退学者においても減少傾向にあるが本質はどうか、本校の正念場として向き合っていかなければならない。学生を第一の教育活動を重視するため、ICT教育の進捗も合わせて報告願いたい。皆様からは、適切な指導ができているかご意見をいただきたい。

（挨拶の後、議事録作成の指名と議事録署名人の指名があった）

3. 報告事項

本会議の議長に東学校長、記録者に清水事務次長を指名し、下記の議事審議に入る。

議案1 2022年度（令和4年度）における方針について

各学科長から2022年度方針の報告があった。

濱籐（作業療法学科 学科長）

■入学生 目標：40名

■退学者 目標：5.0%以下

■国家試験合格率 目標：100%

今年度も国家試験合格率にこだわっていききたい。前年度も高評価である効率的な他学年交流勉強会を実施し、相乗効果を図りたい。国家試験においては、基本的に全員受験を目指しているため100%を維持することは極めて困難であるが、18名の全員合格を目指していく。対策として、1年次から月1回の実力試験を実施し、さらに模擬試験での評価を繰り返すことで細かい指導を行う。

さらに、朝学習セミナーも実施し、個々の課題抽出に努めている。

○医歯薬三科目模擬試験 4年生 平均51.4点 合格率29%

3年生 平均54.5点 合格率40%

4年生の進捗が悪いので、補習で強化していく。ICT教育としてデジタルテキストを検討しているが、使用分野の適応が少ないため見送りしている。

村上（理学療法学科 学科長）

■入学生 目標：40名

■退学者 目標：5.0%以下

■国家試験合格率 目標：100%

入学生は定員を毎年クリアできているため継続活動していく。退学者においては、昨年度4.4%を超えることのないよう細かいケアをしていきたい。毎月1回の実力試験では、国家試験合格ラインに達しない者が多く、かなり強化が必要である。

○医歯薬三科目模擬試験 4年生 平均60点 合格率57%

3年生 平均38.7点 合格率10%

4年生は順調に伸びてきているため、継続。3年生は今から強化しないとかなり厳しい結果となる。全員受験へ向けて取り組みをしていく。また、ICT教育としてデジタルテキストを検討しているが、使用分野の適応が少ないため見送りしている。

曾田（救急救命学科 学科長）

■入学生 目標：30名

■退学者 目標：10.0%以下

■国家試験合格率 目標：100%

前年度は18.4%の退学者を出してしまい、学生ケアが全くできていない。現在は担任制で運用しているが、副担任の関わりを強化し、2名体制にて学生指導にあたる。

学力低下が見られる学生には、補習授業を実施し、模擬試験の結果をフィードバックしながら苦手分野の克服をしていく。

国家試験については、全員受験を実施し100%を達成する。

薮田（看護学科 学科長）

■入学生 目標：40名

■退学者 目標：12.0%以下

■国家試験合格率 目標：100%

前年度は11.1%の退学者を出している。学力低下がみられる者への指導強化をしたが、アプローチ不足による個々のマッチングができていないため改善しなければならない。

一定の指導方法ではなく、各学生の特性を得てケアにあたっていく。

国家試験合格率については、69%と全国平均を大きく割っている現状。今年度は目標100%を目指しているが、本学科での最高値を出したい。

コロナ感染拡大により、臨地に出られる病院、出られない病院とあり、病院間でバラつきがあるため、実習学習で不平等がないように調整していかなければならない。

4. 報告に対する意見

仁泉副委員長

各学科の報告事項に関して具体的な提言をお願いします。

望月（企業等評価委員）

コロナ禍で実習時間の確保が困難であるため、学生に不利にならないように細かい調整をして頂きたい。退学者が多い学科はなぜ増えてしまったのかをもっと深くリサーチして向き合うべきである。指導方法の改善だけでなく、そもそものカリキュラム内容はどうかも含めて、早急に具体策を提示してください。

濱藤（作業療法学科 学科長）

実習地の確保には本学科は問題なく取り組みできている。教員の定期的な実習地への訪問（フォロー）も行っているため、SV及びCVに情報提供してともにケアができている。

カリキュラムについては、今一度見直してみる。

薮田（看護学科 学科長）

コロナ禍での実習地調整が本当に大変で苦労している。本学科の実習は複数名でのグループとして行動しているため、1人でも感染者がでればすべて止まる。学生の行動記録を毎日厳しくチェックし、教育の質を維持するため尽力している。

教員の質においては、はっきりベストとは言えない。学生指導が最優先ではあるが、新人教員の育成にも注力していかなければならない。

カリキュラムについては、新しくしたばかりなので今すぐには変えられないが、前期・後期の科目評価を見ながら改善していく必要はある。

5. 閉会の挨拶

仁泉副委員長

今後の当校の方向性、次回委員会開催予定などについての説明行う。

以上をもって各審議・報告事項を終了する。